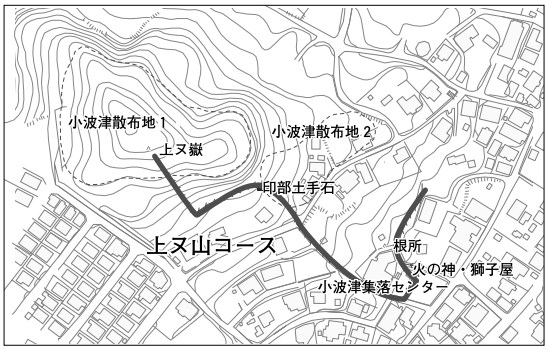
町史だより

西原のさんぽ道 その2

【小波津上ヌ山（イーヤマー）編】

今回のおすすめは、小波津の上ヌ山頂上への道です。スタートの小波津集落センターから約二〇〇メートル、徒歩一〇分ほどの短いさんぽコースとなっています。



上ヌ山は、標高約五〇メートルの丘一帯を指し、小波津集落の西側後方にあります。遺跡（散布地）でもあり、硬質のグスク系土器が出土しています。

集落センター周辺の拝所や井戸などを散策したら、いよいよ上ヌ山へ。まず、丘への入り口付近でお迎えしてくれるのがイヌビワ。小波津ではアンマーチーチーと呼ばれ、葉は餌としてヤギに与えたそうです。アンマー（母の）チーチー（乳）とは何ともユニークな呼び方ですね。

イヌビワの実

他の字では、葉や茎を折ると出る白い液でとりもちを作って、スズメやトンボを捕まえたり、実を口に入れてプチプチと鳴らして遊んだといいます。

しばらく行くと、右手に印部（シルピトゥ）土手石があらわれます。

印部土手石

印部土手とは、琉球王国時代に土地と土地の境を測量したり、区別するために作られたものです。そこにはニービヌフニー（微粒砂岩）で作られた石が置かれています。通常、石の表面には、〔い〕〔ろ〕〔は〕などの順序を示す記号と原名（ハルナー）（地名）が彫られていて、ここでは「モ上の川原」の文字を見ることができます。そのほか、幸地、棚原、徳佐田、呉屋、桃原、上原、内間でもこれらの石は確認されていて、おもに集落内を見渡すことのできる条件の良い場所に設置されていたようですが、詳しいことはわかっていません。

いざ、頂上へ！

まわりを観察しながら歩いていくと、あたりにはクロツグやリュウキュウチクなどの群生を見ることができます。その他、季節ごとの植物や昆虫たちに出会うことができますが、白や淡紅色の花を咲かせるクロヨナは花期が五～九月と長く見られるので、ぜひ見上げて探してみて下さい。甘い香りが、近くにあるサインです。

クロヨナの花

ゆるやかな坂を登りきると、祠（ほこら）が建てられています。そこは小波津集落発祥の地とされ、御嶽（ウタキ）として今も人々に拝まれている大切な場所です。

上ヌ嶽（イーヌタキ）

一帯は大きな雑木や雑草が生い茂っているため薄暗いのですが、木々の間からこぼれる光のぐあいは趣深く、神聖な雰囲気を作っています。時には静かで落ちついた空間も良いのでは？

（田島）

右奥には運玉森が見えます